

## 10月5日 識別のデモンストレーション

### カップに入れた紅茶で、識別を実践する

今日は、識別のデモンストレーションを行ってみたいと思います。

手元にカップがあります。その中に水を入れます。そして、ティーバッグをこの水の入ったカップの中に入れ、かき混ぜ、紅茶ができました。ここまでが準備です。

この紅茶を飲むために、ティーカップを手で取ります。手は身体の部分です。手、足は、肉体的な粗大な身体です。どうして粗大なのか？触ることができるからです。

次に手に取って、カップを口に持っていき、紅茶を飲みます。口も粗大な肉体の一部です。

次に精妙なエネルギー、プラーナが必要です。エネルギーがないと、カップを持つこともできません。例えば、老人ホームに入るとよくわかります。老人は、生命エネルギーがほとんどないので、他人がお世話してあげないと何もできません。

では、最初の手から識別すると、手は一時的です。私たちが死んでいると手も死んでいます。手は永遠ではありません。手は無限でもありません。有限です。手は物質です。

それをアートマンと比べてみます。アートマンの特徴は永遠、無限、意識です。アートマンでないものは、一時的、有限、物質です。そのようにそれぞれの器官を識別していきます。すると、手はアートマンとは違います。

エネルギーも、子どもの時、若い時、年を取った時、死ぬ時、それぞれエネルギーもバラバラです。ある時はエネルギーはありますが、ある時はエネルギーは少ない。変わります。そして、ある人は40kgの重量を持てますが、1000kg、5000kgを持つことはできません。ですからエネルギーは、無限でも永遠でもありません。エネルギーも物質です。意識ではありません。

また、物質と物質が依存しあって、その結果、エネルギーが出てきます。食べ物を口の中に入れるとエネルギーが出ます。ガソリンを車の中に入れるとエネルギーが出ます。2つ以上のものが合わさると動きます。それが物質の特徴です。

次に、紅茶を飲みます。すると紅茶の味がします。それは舌、味覚の特徴です。これがコーヒー、これが紅茶、甘い、苦い…これは、感覚の特徴です。この感覚は、永遠でも無限でも意識でもありませんから、アートマンではありません。

次は、紅茶をどのくらい飲むか、決めないといけません。決めるのは知性（ブッディ）の仕事です。頭がぼんやりしている時は、知性は出ません。生きていますが、知性が働きません。また、深い睡眠の時も知性は働いていません。知性も精妙な物質でできています。

次に、紅茶を飲んで、どんな気持ちかを思うのは、心（マナス）の部分です。そして、心はいつも変化するのは、皆さんよく知っています。その瞬間楽しみ、次の瞬間苦しみ、いつも、上がり下がりを繰り返す波のようです。それが問題です。しかし、アートマンはいつも変わりません。

また、深い睡眠の時、心は動いていません。夢を見ている時は、心は動いています。それは永遠ではありません。ヒンドゥーの考えでは、心は、とても精妙な物質です。

西洋の哲学者は、それがはっきり分かりませんから、心と意識が同じと考える哲学者もいます。

ヒンドゥーの考えでは、意識はアートマンのみです。心も感覚も物質です。目自体は見ることができますが、見るという「感覚」は、見ることができません。ですから、目は感覚の道具です。耳も感覚の道具です。そして、感覚も精妙な物質です。

電球から光が出ています。電球が切れると明かりがつかませんが、電球を交換するとまたつきます。目も、移植することで見えない人が見えるようになることがあります。電気や感覚自体には問題はありませんが、道具を替えることで、また使うことができます。ですが、それをいつも誤解する可能性があります。

感覚は精妙ですから、私たちには見えません。皮膚、肉、骨、血液などは粗大ですから見るすることができますが、心や感覚は精妙なので、見ることができません。精妙ですが物質ですから、特徴は同じで、有限で一時的で相対的なものです。絶対ではありません。

そして、ランプのガラスが汚れていなくて綺麗なら、中の灯りがよく見えるように、私たちの中心に、アートマンの光が入っています。精妙な心や感覚がきれいなら、その中のアートマンを見ることができます。

物質は、サットワ、ラジャス、タマスの性質があります。そして、物質は5つの要素（空・風・火・水・地）の部分の配合によって作られます。心は、5つの要素のサットワ的性質によって作られます。心も知性もサットワで作られていますから、とても精妙です。

次に記憶があります。私たちの中に、ティーバッグを見たことがない人はいません。しかし、森の人は見たことがないですから、記憶にありません。記憶がないと、それを分けることができません。ティーバッグが分かるのは、記憶の中にその情報がインプットされているからです。しかしその記憶も、無限でも永遠でもありません。

そして、次に自我のレベルがあります。私の手、私の舌、私がおいしい、私が決める、私の記憶…すべて、自我から出ています。しかし、その自我も物質です。自我も永遠、絶対、自由ではありません。

カップは物質です。カップは自分で動くことができません。しかし、手は動いています。舌も、心も、知性も、記憶も、自我も動いています。物質は動くことができないのに、手、舌などは動いています。矛盾が出ませんか。あなたはどのように動くことができているのですか？

それは、アートマンには知識があるからです。そのアートマンの知識を借りて動いています。アートマンだけ、意識があります。

別の言葉にすると、アートマンの反射によって、身体に意識を反射させることで、動いています。例えば、満月の光は、本を読むことができるくらい明るいです。しかし、月自体には光はありません。月面着陸した映像を見ると、そこは岩のでこぼこした場所で、光はどこにもありませんでした。

地球から月を見ると、とても美しいです。ムーンライト、「その人の顔は月みたいにきれいです」というような、月について美しい詩を書く詩人もいます。しかし、実際には、月には美しいものは何もありません。それは、太陽の光が反射して、美しく輝いてムーンライトになっています。太陽の光を借りて、輝きます。

私たちも、すべてアートマンの光を反射して、借りて、影響で…どのような表現でもいいですが、そのアートマンによって、動いています。アートマンが身体から出ますと、身体があっても何もできません。死んだ人は、見ることも、聞くことも、記憶も何もできません。

食事をする時、自分で時々、この紅茶を飲む時のようなデモンストレーションを行って、識別してください。それがマナナです。それをしないと、シャンカラのニルヴァーナ・シャットカム「オーム 私は心ではない、知性でもエゴでもチッタでもない、耳でもなければ舌でもなく…」<sup>1)</sup>を聞いても、何も結果は出ません。単に、シャヴダ・ギャーナ、言葉だけの知識です。タットワ・ギャーナは、この言葉の本当の深い意味を理解する知識です。信者はそのことに気をつけないと、ウパニシャドをいっぱい勉強しても、自分の人生を助けることは

できません。勉強しても、無知がなくなる、苦しみがなくなる、ストレスがなくなる、恐れがなくなる…何も助けになりません。そのために、マナナが必要です。

もし、食事の時に、識別をしながら食事をする、あまり食事を楽しむことができません。そうです。それが普通の人と、信者の違いです。毎日それを行ってください、とは言っていない。「時々してください」ということです。そうしないと、タットワ・ギャーナの印象が出てきません。そのため、ウパニシャドでは、「静かに実践してください」と言っています。大勢の人の中でその識別は難しいです。静かな環境に入らないとできません。

### マナナのもう1つのやり方…議論

次は、argument（議論、論拠、主張）または、reason（理由、理性、分別）についてです。

先生から真理のことを聞きました。シュラヴァナですね。しかし、真理のことを聞いても、この真理が正しいか、正しくないか、正しいならどうして正しいのか、を議論します。それもマナナの1つのやり方です。それをしないと信仰になってしまいます。

ウパニシャドは、「先生の話聞いてすぐに信じてください」、とは言っていない。最初は自分で理解してください。本当に正しいと理解したら、信じてください。

最初から、「信じなさい、信じなさい」という信仰は壊れやすく、すぐに消えます。そして、疑いが出る可能性があります。そして、反対の意見を言うと、先生はとても怒ります。先生は「聖書の中にそのことが書いてあるので、信じなさい」と言って、一方的に終わります。

ヒンドゥー教の特徴は、そうではありません。「あなたは、絶対に議論をしてください」と言います。バガヴァッド・ギーターやウパニシャドの中に、何回も何回もその場面が出てきます。

しかし、先生のレベルを試すための議論はしないでください。それは、あなたのエゴです。真理のことが本当に知りたい、そして、それが分からない時は、謙虚な心で議論してください。これが大事なポイントです。

議論をするときは、絶対にそのことを覚えておいてください。どのような態度で議論するかが大切です。

例えば、先生が「ブラフマンが創造者です」と言いました。ウパニシャドの中にたくさん書いてあります。そのブラフマンの特徴は、純粹意識、無限、永遠、絶対の至福、絶対の知識、絶対の存在。それがブラフマンです。しかし、別の意見もあります。「ブラフマンの存在はありません。自然が自然を創造しています。別の創造者はいません。」という意見もあります。身体も自然のもので、身体から感覚も知性も意識も出てきます、すべて自然のもので、と、そのような意見もあります。

ウパニシャドの意見では、ブラフマンが自然を創造します。科学者の意見は、自然が自然を創造します、別の創造者はいません。と、このように別々の考えがあります。

ウパニシャドの言うことは、「神様は自然を作りました」。それは、サーンキヤ哲学に詳しく書いてあります。ブラフマンからプラクリティが現れ、プラクリティから5大要素が現れます。そして、トリグナの性質によって、いろんな割合で混ぜ合わせ、すべての生き物を創造しています。

先ほど話しましたが、知性と心はその5大要素のサットワの性質で作られました。肉体はタマスの性質で作られています。サーンキヤ哲学では、宇宙もどのように創造されたかが詳しく説明されています。

物理学者のニコラス・テスラは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダのサーンキヤ哲学の説明を聞いて、とても感銘を受けていました。現代の科学者も、同じことを考えている人がたくさんいます。

「自然は自然を作ることができません。それを作る存在が1つあります。その存在は、『知識（知性）を持っている存在』です。その存在が、宇宙を作りました。宇宙は自分で自分を創造することはできません。」

しかし、知性の存在が何かは分かっていません。この世界は、とても複雑に創造されています。それを誰が創造したのでしょうか。絶対に知性を持った存在です。その知性は物質にはありません。

創造があれば、絶対に創造者がいます。創造と創造者とは何が違うのでしょうか。創造者は意識があります。知性があります。創造はそれがありません。物質は意識ではないので、自分で物質を作ることができません。

例えば、木でできている椅子があります。材料は、木材です。そして、それを作る大工さんがいます。木材が自然に椅子になるのを見たことがありますか？絶対に大工さんが必要です。

それと同じで、創造物には絶対、創造者が必要です。創造者の特徴は意識があるということです。これが議論です。これもマナナの1つのやり方です。

### 「粗大な身体」「精妙な身体」「原因の身体」の存在

もう一つ、ウパニシャドは、肉体は、粗大な身体（ストウーラ・シャリーラ）、精妙な身体（スークシュマ・シャリーラ）、原因の身体（カーラナ・シャリーラ）から成っているといます。それをどのように議論するかについて考えます。

まず最初に、ウパニシャドの言うことを理解します。粗大な身体は、触ることができます。精妙な身体（心）は、中にあるので触ることができません。原因の身体とは、自我のことですから、これも触ることができません。そして、これらの身体とアートマンとの違いは何かを、1つ1つ集中して考えて、自分の中で議論して理解していきます。

また、生命エネルギーと粗大な身体とは何が違うか、生命エネルギーは何によって働いているか、他の存在と、この存在とは何が違うかを議論していきます。

その結果、人が死ぬとは、粗大な肉体がなくなるだけで、精妙な身体も、原因の身体も、生命エネルギーも、アートマンもなくなるという考えが出ます。

次に、科学者の見方では、人は死ぬと、ウパニシャドと反対の意見になります。死んで燃やした後は、すべてなくなります。その証明は、燃やした身体はどのように元にもどるか、燃やした後は、灰だけが残ります。肉体も、人格も、すべてなくなるという意見です。ですから、輪廻の考えもありません。サムスカーラもカルマもありません。

一方、ウパニシャドの証明は、霊の存在があります。協会発行の書籍「ラーマクリシュナの生涯」にも、その場面があります。ある信者の家に泊まったとき、霊が現れて、「お前がいると体が燃えるように熱いので、この場から去ってほしい」と言いました。そして、シュリー・ラーマクリシュナはそこから別の場所に移動しました。シュリー・ラーマクリシュナは、100%正しいことしか言いません。嘘はまったくありませんから、これが証明です。

また、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ（以下スワミージー）も同じような体験をしています。

シュリー・ラーマクリシュナが亡くなったあと、スワミージーはインドの各地に巡礼に出かけました。ある山のふもとに森に滞在していた時、夜、突然、村から楽器の音が聞こえてきました。そこで、スワミージーが村の人に尋ねると、「村人に悪霊が憑依しましたから、それを取り除く儀式をしているときの音です。」と答えました。スワミージーは、興味が出たので、村にその儀式を見に行きました。その悪霊の宿った人は、真っ赤に焼けた斧を身体にこすりつけても、まったく皮膚が焼けることもありませんでした。スワミージーは、そこにはトリックがあるかもしれないと思い、自分でもその斧に触れました。そうすると、激痛が走り、家に戻ってもその痛みは引かず、自分の哲学の知識も全部忘れるくらいの激痛だったそうです。そして、村人がスワミージーの姿をみて、「あなたはお坊さんですから、除霊のやり方を知っているでしょう。この人から

悪霊を追い払ってほしい。」と言いました。そこで、スワミーは、その人の頭に手を載せて、シュリー・ラマクリシュナの名前を何回も唱えました。すると、悪霊はその人から出て行きました。スワミーも、どうしてそれができたか、理由が分かりませんでした。本当に悪霊が出て行きました。

これが、肉体がなくなっても精妙な身体が存在しているという証拠です。

## 10月19日 argument (議論、論拠、主張) または、reason (理由、理性、分別) の方法

### トリグナーティタの実践

議論の前に、識別の方法でもう1つ、別の方法があります。それは、トリグナーティタ（トリグナを超越した人）という方法です。「私はアートマンであってトリグナではない。トリグナを超越したものである。」という識別です。

例えば、玉ねぎを剥くときに、外側から順番に1枚、1枚と剥いて、最後の1枚まで剥く方法が、「これではない、ネーティ、ネーティ」と言って識別する方法です。もう1つのやり方は、包丁で一刀両断する方法で、「すべてトリグナです」と識別する方法です。「すべてがトリグナであって、アートマンではない」。トリグナとマーヤーは同じです。ですから私はマーヤーでも、プラクリティでもありません。この世界はすべてマーヤーです。全部プラクリティです。それが、もう1つの識別の方法です。

しかし、マーヤーとプラクリティでは、あまり印象が出ないので、トリグナによって印象が出るように識別します。

バガヴァット・ギター3章の27, 28節を見てください。

プラクリテーハ クリヤマーナーニ グナイヒ カルマーニ サルヴァシャハ  
*Prakṛteḥ kriyamāṇāni guṇaiḥ karmāṇi sarvaśaḥ /*  
アハンカーラ・ヴィムーダートマー カルターハム イティ マンヤター  
*Ahaṅkāra-vimūḍhā' ātmā kartā' ham iti manyate // 3-27*

あらゆる活動は、<sup>プラクリティ</sup>人間生来の<sup>トリグナ</sup>三性質によってなされるのだが、自分の心が我執によって曇らされている者は、『すべて私が為しているのだ』と思いこんでしまう。

タットヴァ ヴィト トゥ マハー バーホー グナ カルマ ヴィバーカヨーホ  
*Tattva-vit tu mahā-bāho guṇa-karma-vibhāgayoḥ /*  
グナー グネーシュ ヴアルタンタ イティ マトヴァー ナ サッジャター  
*Guṇā guṇeṣu vartanta iti matvā na sajjate // 3-28*

だが偉大なる勇者（アルジュナ）よ！人間生来の<sup>トリグナ</sup>三性質と<sup>カルマ</sup>活動を良く知る人は、自分の感覚（肉体）が対象を求めているだけであって、真我（靈魂）はそれに関わってはいないと達観する。

この説明で、すべてはトリグナの働きと働きの結果によるもの、ということが理解できます。身体、感覚、心、記憶、知性、自我、すべてトリグナによってつくられたものです。その働きもトリグナによって、結果もトリグナによってできたものです。アートマンはそれとは何の関係もありません。トリグナとアートマンは無関係です。それを識別します。アートマンは見えていない、覚えていない。苦しみも、悲しみもない。すべて身体、心、知性のことです。

勉強の時だけだとすぐに忘れますから、料理で玉ねぎを切る時に、思い出してください。それがマナナです。マナナとは、いつもいつも、それを考えることです。ヴェーダーンタの大切なやり方はマナナです。

## 輪廻転生と前世の記憶

それでは、議論に戻ります。最初、死ぬ時の話をしました。死ぬ時は、粗大な肉体だけがなくなります。精妙な身体はなりません。精妙な身体には、精妙な感覚、心、記憶、知性、自我もアートマンも存在しています。アートマンが肉体から離れると、女王蜂が飛び立つとすべての蜂もそれについていくように、精妙な身体も一緒についていきます。

バガヴァッド・ギーター 2 章 22 節を見てください。

ヴァーサーンシ シールナーニ ヤター ヴィヤーヤ ナヴァーニ グリフナーティ ナロー・バラーニ  
*Vāsānsi jirṇāni yathā vihāya navāni gr̥hṇāti naro' parāni /*  
タター シャリラーニ ヴィハーヤ シールナーニ アンニヤーニ サンヤーティ ナバーニ デーヒー  
*Tathā śarīrāni vihāya jirṇāny anyāni samyāti navāni dehī // 2-22*

人が古くなった衣服を脱ぎ捨て、新しい別の衣服に着替えるように、魂も、使い古した肉体を捨て去り、新しい肉体を纏<sup>まと</sup>っていくのだ。

その死後の状態とは、最初は霊の状態、その後カルマの結果で、地獄や天国に行きます。そして、まだカルマの結果が残っていますから、また、生まれてきます。「生まれる」の意味は、新しい粗大な身体に入ることです。すべて新しくなるのではなく、肉体だけが新しく、他は古いままです。

ヴェーダーンタの先生が、生徒がどのくらいヴェーダーンタを理解しているか試すために質問をします。「あなたは何歳ですか?」。すると生徒は、「先生、あなたは何の部分の歳のことを聞いていますか?」と尋ねます。本当にヴェーダーンタを理解している生徒のしるしです。

肉体の年齢は私たちの一部分のことです。原因の身体、アートマンには歳の考えはありません。もし、他の人が、あなたの歳を尋ねて、そのような答え方をしたら、あなたの頭がおかしくなったと思うでしょう。しかし、それが正しい考えです。それが真理です。真理から見た答えです。

実在の見方、非実在の見方では、答えが全然違います。皆さんが真理を本当に理解すると、死ぬ恐怖がなくなりますか。本当の信者はそのことを信じています。死の状態は、変化しただけです。服が変わっただけです。本当の私の存在は変わりません。

カタ・ウパニシャドの中にその事があります。

イエヤム プレーテー ヴィチキッサー マヌシュエー スティーターケー ナーヤマスティーティー チャイケー  
*Yeyam prete vicikitsā manuṣye-'stītyeke nāyamastīti caike;*  
エータッド ヴィッティヤマ ヌシシュタスト ヴァヤーハム バラーナーメーシャ ヴァラストゥリティーヤハ  
*Etad vidyāma nuśiṣṭast vāyā' haṁ varānāmeṣa varasṭṛṭiyah. [kathopanīṣad I - i -20]*

そこで、ナチケータスは心中に思いめぐらしてから言った。

「人が死ぬと、こういう疑問が起こります。ある人は、彼は存在する、と言い、またある人は、彼は存在しない、と言います。あなたの教えによって、私は真実を知りたいと思います。これが私の三つ目の願いです。」

その混乱の問題は、現在でも続いています。死後があると考える人は、亡くなった人にお供えをしたり、先祖供養をしたりします。どのくらい死後を信じているかは別ですが、源はそこにあります。死後がないなら、お供えも供養も必要ありません。

また、死後を信じていない人もいます。ハーバード大学のとても有名な学者は、アートマンについては、想像の産物と言っています。

そのように、現在においても混乱はあります。そして、今、議論によるマナナをしていきます。

死後がなかったら、葬式や供養の意味がありません。ヒンドゥー教や仏教だけではなく、キリスト教でも人

が亡くなった後のことを信じています。すべての宗教は、亡くなった後の存在を信じています。それが信仰です。

それでは、その証明はどのようにするのでしょうか。

前回、シュリー・ラーマクリシュナやスワミー・ヴィヴェーカーナンダの体験の話をしました。それが1つの証明です。また、天国や地獄から戻ってくるという意見に対して、もう1つの議論、「輪廻転生があるかないか」の証明が必要です。その意見に対しての論理も、いっぱいあります。

死んだら灰になって終わり、という意見は、証明の問題はありませんが、死後も存在する、輪廻があるという考えの人には、理論的に話さないと人は信じません。そのためにも、論理や議論が必要です。

輪廻に関する証明は、前世の事を覚えている人の例は、たくさんあります。インターネットで調べてもたくさんヒットします。もちろん嘘の場合もありますが、すべてが嘘ではありません。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯について書かれた本にある逸話です。

「シュリー・ラーマクリシュナはそこに七人の尊いリシが瞑想に浸っている姿をご覧になった。彼らは智慧と神聖さにおいて神々にも優る、と思われた。そして彼らの無比の靈性に感服していると、その不可分の絶対者の一部が凝結して、神聖な子供の姿となった。その子がやわらかな両腕でリシの一人の首を優しく抱きしめて、何事かを彼の耳に囁くと、この魔法の一触れでリシは瞑想から目覚めた。リシに半眼の眼差しを注がれると、不思議な子供は言った。「私は地上に降りるよ。お前も一緒に来てくれるね？」柔和な表情でリシは同意を示し、再び深いサマーディーに入ってしまった。しかしリシの一部が光の姿を取って地上に降り、ナレーンドラ<sup>2)</sup>が暮らすカルカッタの家に落ちていくのを見たラーマクリシュナは驚かれた。そして師は初対面でナレーンドラがそのリシの生まれ変わりであることにお気づきになったのだった。またリシを下生させた聖なる子供が他ならぬ師自身であることも認められた。」

そして、シュリー・ラーマクリシュナは、スワミー・ヨーガーナンダは、アルジュナの生まれ変わりであり、スワミー・ニランジャンナーナンダは、ラーマ神の一部分であり、スワミー・ブラフマーナンダは、シュリー・クリシュナの永遠の伴侶と仰っていました。(※3人ともシュリー・ラーマクリシュナの直弟子達)

シュリー・ラーマクリシュナは、すべて皆の現在、過去、未来をはっきり知っていました。

また、前世の記憶について反対する意見に対しての議論もあります。

前世の記憶を思い出す人もいますが、どうして私たちには前世の記憶がないのですか？どうしてその人達は前世の記憶を覚えているのですか？といった意見です。この意見に対して、マナナをします。

前世のことに興味のある人はいます。過去、何処にいたか、誰がお母さんだったかなど、知りたい人はいます。しかし、どうして思い出せないのでしょうか。

私たちは子どもの時、多くの経験をしています。しかし、全部覚えていますか。20才、30才になって、小さい時のことを覚えているのでしょうか。友達もたくさんいましたが、覚えている人の名前は1人か2人ぐらいです。そのように、今生のことも忘れていきますから、前世にいっぱい出来事があっても、覚えていません。これが答えです。

もう1つの議論は、もし、あなたが思い出したいなら、パタンジャリのヨーガ・スートラの3章、ヴィブーティーパダの中にその方法が書いてあります。

*Pariṇāma traya sanyamād atitānāgata jñānam.* / 3.16

進化のその三段階にサンヤマ（綜制）を施すことによって、過去と未来についての知が生まれる。

*Saṃskāra śāksātkaṛaṇāt pūrva jātijñānam. / 3.18*

サンヤマによって自らの心的印象（サンスカーラ）を直観することにより、前世についての知識が得られる。

*Baleṣu hasti balādini. / 3.25*

象その他の動物の力にサンヤマを施すことによって、それらの力を得ることができる。

このように、瞑想の対象に集中して瞑想すると結果が出ます。パタンジャリは、自分で経験してヨーガ・スートラを作りましたから、想像ではありません。実践すれば本当にその結果が出ます。

もし、あなたが前世のことを思い出したいなら、実践してください。実践しないで、「前世はない、というのは嘘です。」と言っても意味がありません。

科学者の問題は、自分ですべて説明することができないので、死後や前世はない、と言うことです。時々自分で嘘を使います。その種類の考えがよくありません。なぜなら、輪廻は本当にあるからです。それを経験した人は、とても純粋で、いつも正しいことだけを言っています。真理を悟った人も、輪廻があることを話しています。それに反対している有名な学者もいました。その学者もその学者の書いた本も、だんだんと忘れ去られていきましたが、パタンジャリのヨーガ・スートラは今でも続いています。もし、ヨーガ・スートラが嘘なら、今まで続くことはなかったでしょう。ヨーガ・スートラもバガヴァッド・ギーターも真理のことを書いていますから、今まで続いています。続いていますから、本当に正しいのです。

## カルマとカルマの結果について

次の議論は、「カルマとカルマの結果」についてです。聖典の中には、カルマ (karma) と、カルマの結果という意味のカルマ・ファラー (karuma phala) について書かれています。カルマもカルマ・ファラーもないとする意見は、何も議論の余地がありません。しかし、聖典やウパニシャドの先生の意見では、カルマもカルマ・ファラーもあります。

善いカルマは結果も善く、悪いカルマは結果も悪く、善いカルマで天国に行き、悪いカルマで地獄に行きます。善いカルマの影響で、新しく生まれると善い人生になり、悪いカルマの影響で、とても大変な状態に生まれ変わります。その反対の意見は、人は亡くなると生まれ変わりませんから、カルマ・ファラーもない、というものです。

ではカルマとカルマ・ファラーの証明はどのようにするのでしょうか。例えば、同じ家族に生まれました。環境も両親も同じ、双子の場合もあります。しかし、性格が違います。双子でも、ある人が好き、嫌い、お喋り、お喋りではない、神様が好き、神様が好きではない、などです。両親の遺伝と環境によって、性格の違いがありますが、同じ両親と同じ環境で、なぜそんなに性格が違うのかは、説明ができません。その関係でカルマとカルマ・ファラーの説明があります。その双子の前世のサムスカーラ、カルマとカルマ・ファラーの影響が原因です。

ある人の人生はいつも良い状態で、ある人の人生はいつも困った状態です。神様は、ある人が好き、ある人は嫌いなので、そのように創造したのでしょうか？神様は不公平なのでしょうか？それが原因ではありません。

神様は、皆さんのお父さん、お母さんですから、原因は自分のカルマです。前世のカルマが悪いと、今生は大変な状態の人生になります。その人のカルマが悪かったので、困っています。また、例えば、子どもの時から神様が大好き、別の子どもは全然神様のことが好きではない、などは遺伝では説明が付きません。その原因



は、サムスカーラです。前世で神様のことがずっと好きでしたから、今生で生まれてもすぐに神様が好きになりました。

6才、7才の時から、楽器の演奏などが上手な神童がいます。どこで習いましたか、小さい時にそんなに上手になる可能性はありません。前世の関係がないと説明できません。そのように、議論をしていく必要があります。それがマナナです。

死後の精妙な身体、輪廻、前世、カルマなど、すべてマナナをする必要があります。聖典や真理のいうことはもちろん正しいですが、マナナをしないと、そのことを信じることができません。それが大事なポイントです。それを理解しないと、「解脱をしたい」という気持ちの意味がなくなります。マーヤーの束縛の結果として、私たちは何回も何回も生まれ変わり、また生まれると、苦しみ、悲しみがいっぱい、の同じ経験を繰り返します。そして、その経験をもうしたくないと思いますから、解脱の願いが出ます。

肉体がなくなった後も精妙な人生は続き、死後、どこに行くか、また、どこにどのように生まれ変わるか、苦しみがいっぱいか、楽しみがいっぱいか、聖典に書いてあることが正しいのか正しくないのか、を、議論して、理解して、信じないと、解脱の意味がありません。

そのように解脱の願望を基礎に置いて、マナナをすることが大切です。

#### 注釈

- 1) 2023年9月のサマリーをご参照下さい。
- 2) スワミー・ヴィヴェーカーナンダの出家前の名前。